

1月 2-8日

## 列王第二 22-23章

### 28番の歌と祈り

開会の言葉（1分）

### 神の言葉の宝

「謙遜であることはなぜ大切か」（10分）

宝石を探し出す（10分）

王二 23:24, 25 ヨシヤはまた、靈媒師や占い師、テラフィム像(\*家の神/偶像)や汚らわしい偶像(へ語で「ふん」を意味する言葉と関連があると考えられる、嫌悪を表す表現)、ユダとエルサレムにあった極めて不快なもの全てを排除した。祭司ヒルキヤがエホバの家で見つけた書物に記されている律法の言葉の通りにするためだった。 25 ヨシヤのように、モーセの律法全てに従って、心を尽くし、力を尽くし、自分の全てを尽くして、エホバのもとに戻ろうとした王は後にも先にもいなかった。

大変な子供時代を過ごしてきた人にとって、ヨシヤの手本はどのように励みとなるか。

(塔 01 4/15 26 ページ 3-4 節) ヨシヤは幼い時、望ましくない環境の中で育ったにもかかわらず、エホバの目に良いことを行ないつづけました。その支配は非常に良い支配だったので、聖書は次のように述べています。「彼のように、心をつくし、魂をつくし、活力をつくして、モーセのすべての律法にしたがって、エホバに立ち返った王は彼の先にはいなかった。彼の後にも彼のような者は起らなかった」。—列王第二 23:19-25。たいへんな子ども時代を耐えた人にとって、ヨシヤは勇気を与えてくれる何と良い模範なのでしょう。わたしたちはその模範から何が学べるでしょうか。ヨシヤが正しい道を選びかつその道を歩み続けるために何が助けとなつたでしょうか

**あなたの答え** ヨシヤは謙遜にエホバに従い、エホバからの祝福を求め続けた

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。

**あなたの答え**

1. ヨシヤが大々的に真の崇拝を復興させるきっかけとなったのは、(22:8) 神殿の修復作業で偶然「律法の書」を見つけたことだった。私たちも全く別のことをしていたり、別のところに出かけたりした時に、偶然思いもしなかった祝福に与かれたりきっかけを得られた、という経験があるかも。例えば聖書を学んでいる人や野外の誠実な人を援助するときにも、手を休めずに何らかの、場合によっては自分が好まないアイデアも試して、そうした楽しい経験をしていきたい

2. (23:29) の並行記述を調べると、ヨシヤ王はエジプト人と交戦するという悲しむべき失敗を犯して命を失うことになったよう。でも (23:24) にあるとおり、その謙遜さと真の崇拝に対する確固たる態度によりエホバからの是認を得ていたヨシヤでさえ、失敗したり、大変な経験をしたこのことも、私たちの辛い状況や経験がエホバからの是認とは全く関係ないことが分かる。それで、他の人には理解してもらえない今経験している苦難がとても大変だったり、一見祝福が無いような状況の中でも、エホバからの支え、特に聖書通読を楽しんでいきたい

## 野外奉仕に励む

最初の話し合いの動画（5分）討議。「[最初の話し合い: 祈り（詩 65:2）](#)」の動画を再生する。映像が止まったところで動画を一時停止し、画面に表示される質問をする。

「

若い方に合えたら尋ねてみたいことがあった。誰でも自分や家族の幸せを祈ることある。文化や背景に関わりなく。祈りって誰かが聞いてくれているって思うか？（どうか？聞かれて居て欲しい） **※①** そう思いますよね。ちょっとここを見て。誌 65:2 「祈りを聞く方、あなたのものとにあらゆる人がきます。」これ、聖書の言葉だが、最初のところに何とあったか？（祈りを聞く方一ですか？）そう、祈りは聞かれるっていうこと。誰が聞いてくれると思うか？（神様？）そう。例えば自分の話をちゃんと聞いてくれる友達がいたら、嬉しいでるよね？（そうですね。嬉しいかも）同じように神は祈りを真剣に聞いてくれる。しかも聖書の神は人を創造した方なので、言葉に出さない祈りも聞いてくれる。（へー、初めて聞いた）そうですか。では、どんな祈りでも聞いてもらえるのか？そのことをまた今度お話しさせてください。 **※②**

」

**※①もし家の人気が「祈りは聞かれない」などと言ったら、どのように答えますか？** ⇒

では今祈りを捧げている世界中の何十億もの人々は全く無駄なことをしているのでしょうか？

**※②宣教ツールボックスからどんな出版物を紹介できますか？** ⇒ 幸暮レッスン 07 「エホバはどんな神？」 / 08 「あなたもエホバと友達になれる」 祈りの基盤となる情報に触れる

最初の話し合い（3分）[話し合いのサンプルの話題](#)に沿って話す。（[教勵 第1課](#)）

最初の話し合い（5分）[話し合いのサンプルの話題](#)に沿って話す。「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子の[レッスン 01](#)から聖書レッスンを始める。（[教勵 第16課](#)）

## クリスチヤンとして生活する

### [120 番の歌](#)

「謙遜？ それともごう慢？」（[ヤコ 4:6](#)）しかし、神が示してくださる惜しみない（\*過分の）親切は、そのような精神に勝ります。それで、こう述べられています。「**神は傲慢な人に敵対し、謙遜な人に惜しみない親切を示してください**」）（15分）討議。[動画を再生し](#)、次の質問をする。あなたの答え

**①謙遜さと傲慢さにはどんな違いがあるか。**

**傲慢さ**とは、**侮蔑**（**ズベツ**）的な誇り、横柄さ、尊大さのこと。傲慢な人は自分が仲間の人間より優れていると考える。対照的に**謙遜さ**とは、誇りや尊大さが無いこと。へりくだつた思いのこと。謙遜さと傲慢さは、まさに正反対に位置している。

**②モーセの例からどんなことを学べるか。**

非常に謙遜なモーセでも一瞬とはいえ、謙遜傲慢メタの傲慢の方に針が振り切れたことがあり、それをエホバは喜ばれなかった。謙遜さを失うことはいとも簡単

**③あなたが謙遜さを保つことを決意しているのはなぜか。**

謙遜さを保つことはエホバとの温かい関係や私たちの喜びや幸福と関係しているが、**不完全**な私たちはそれを失う危険にいつも隣り合わせている。一層その特質を自分の生き方とできるよう努力を続けていきたい

「

(ヤコ 4:6 に言及) まず傲慢さとは、侮蔑的な誇り、横柄さ、尊大さのこと。傲慢な人は自分が仲間の人間より優れていると考える。対照的に謙遜さとは、誇りや尊大さが無いこと。へりくだつた思いのこと。謙遜さと傲慢さは、まさに正反対に位置している。貴方は、謙遜さと傲慢さの間の何処にいますか？エホバからのこの謙遜傲慢メータで測ると針はどの辺を指すでしょうか？真ん中ではなく、謙遜に近い方がいい。私たちは不完全でも、できるだけ傲慢からは離れたい。エホバは傲慢な者に適し、謙遜な者を祝福される。傲慢さは単に考え方の問題ではない。マル 7:21-23(中から、つまり人の心から、有害な考えが出てきます。性的不道徳、盗み、殺人、22 妾淫、貪欲、邪悪な行為、欺き、恥知らずな行い、ねたみ、冒涜、傲慢、無分別です。23 これら邪悪な事柄は皆、中から出てきて人を汚します)

次に謙遜さについて考える。古代世界において謙遜という言葉は、奴隸で惨めで哀れな人を連想させた。しかし、謙遜さとそのような卑しさとは違う。むしろ聖書は謙遜さ、つまりへりくだつた思いが、実際には尊れや、神のみ前での良い立場に人を導くことを強調している。格言 22:4「謙遜さとエホバへの畏れがもたらすのは、富と栄光と命である。」惨めや哀れとは全く違う。もしエホバが謙遜傲慢メーターで私たちを検査するとしても、針がどちらか一方に留まるということは無いだろう。献身したクリスチャンなので、誰も全く心が傲慢ということは無い。同時に不完全な人間であるため、誰も完璧に謙遜であることも出来ない。完全に謙遜なのは、エホバとイエスだけ。

では基本的に謙遜な人でも時折傲慢に、つまり尊大に振る舞うことがあるか？モーセの例を考える。エホバはモーセに非常に大きな権威を与えた。権力や権威や責任ある立場を持つ人が、謙遜さを徐々に損なうことがある。しかしモーセはその謙遜さを何度も実証した。例えはある時モーセは 70 人の年長者を集めた。民数記 11:25 にあるとおり、エホバはモーセの例のいくらかを取ってその 70 人に与え、彼らは預言者として振る舞うようになった。モーセが彼らを妬み、自分の権威と特権に固執した証拠は何も無い。確かに謙遜だった。義理の父親から自分の責任を他の人に委ねるように提案されたこともあった。その提案を尊大に退けることなく、謙遜に受け入れた。生涯の終わりにはエホバが自分の後継者としてヨシュアをお選びになったとき、モーセはその決定を謙遜に受け入れた。ヨシュアの指導に従うよう民に強く勧めた。それでモーセは謙遜さにかんするこの上ない模範。でも完全ではなかった。つまり尊大に行動してしまった。水がないためにイスラエルの民が尊大で反逆的な精神を示し始めた時。民数 20:4-5「どうしてエホバの会衆をこの荒野に連れてきて、私たちと家畜をここで死なせるのか。5 どうして私たちをエジプトから連れ出して、こんなひどい場所に連れてきたのか。ここでは種をまけず、イチジクやブドウやザクロも育たない。飲む水もない」を読む。モーセは本当に苛立ち、一瞬謙遜さを失う。民数 20:9-10「モーセは命じられた通りにエホバの前からつえを取った。10 モーセとアロンは会衆を大岩の前に呼び集め、モーセが民に言った。「さあ聞きなさい、反逆者たち！ この大岩から私たちがあなたたちのために水を出さないといけないのですか。」この行動は傲慢で尊大。イスラエルの民の言動が間違っていたことは明らか。しかしエホバはモーセの針が瞬間に傲慢の方に振り切れたのをご覧になった。民数 20:12「その後エホバはモーセとアロンに言った。「あなたたちは、私に信仰を示さず、イスラエルの民の目の前で私を神聖なものとしなかったので、私が与える土地にこの会衆を連れて入ることはない。」モーセの針は殆どいつも謙遜の方に寄っていた。でも一瞬とはいって、傲慢の方に針が振り切れたことをエホバは喜ばれなかった。この例を良く考えよう。謙遜さを失うことはいとも簡単で、特に責任を与えた時、そうかもしれない。会衆で巡回区で支部で、新しく責任を負うかも。あるいは何かの技術や能力に秀でて沢山誉められるかも。また仲間と意見が合わない場合もある。私たちは謙遜さを保てるか？素晴らしい指針がものの塔 2013 年 2 月号にある。「忘れないようにしましょう。エホバにとって有用な者となるためには、どんな時でも能力より謙遜さの方が重要。サウル王は謙遜さよりも能力を重要視した。サムー 15:17,19「サムエルは言った。「あなたがイスラエルの諸部族の長にされた時、エホバがあなたを選んでイスラエルの王にした時、あなたは自分のことを取るに足りない者と思っていたのではないですか。…それなのに、どうしてエホバの言うことに従わず、貪欲にも敵のものに飛び付き、エホバから見て悪いことをしたのですか！」エホバはサウルの行動を喜ばれず、こう伝えた。サムー 15:23「反抗は占いの罪と同じで、出過ぎた行動は魔力や偶像を使うのと同じです。あなたがエホバの言葉を退けたので、神もあなたを王位から退けました。」聖句の述べる通り、エホバは傲慢な者に適する。私たち皆の針が謙遜に近い方に留まることができますように。

」

## 会衆の聖書研究 (30 分) 暮 レッスン 33

### 閉会の言葉 (3 分)

#### 23 番の歌 と祈り



神の言葉の宝

## 謙遜であることはなぜ大切か

ヨシヤはエホバに喜ばれることを熱心に行つた。 (王二 22:1-5)

ヨシヤは民の過ちを謙遜に認めた。 (王二 22:13。塔 00 9/15 29 ページ 7 節-30 ページ 1 節神殿を修理する者たちは朝早くから精力的に働きます。ヨシヤは、邪悪な先祖の一部が神の家に加えた損傷を、働き人たちが元通りにしていることについてエホバに感謝したに違いありません。作業が進んでいたとき、シャファンがやって来て報告します。何を持ってきたでしょうか。巻き物を携えてきたのです。シャファンは、「モーセの手によるエホバの律法の書」を大祭司ヒルキヤが見つけたと説明します。 (歴代第二 34:12-18) 何という発見でしょう。それは紛れもなく、律法の書の原本だったのです。 ヨシヤはその書のすべての言葉をぜひ聞きたいと思います。シャファンが読んでいる時、王は、それぞれの命令が自分と民にどう当てはまるかを理解しようとします。王は特に、この書が眞の崇拜を強調していること、民が偽りの宗教に加わるなら災厄が臨み、流刑にされると予告していることに心を動かされます。神の命令すべてが実行されているわけではなかったことを悟り、ヨシヤは衣を引き裂き、ヒルキヤ、シャファンその他の者たちに次の命令を出します。『この書物の言葉についてエホバに伺いなさい。わたしたちの父祖がこの書物の言葉に聴き従おうとはしなかったために、わたしたちに対して燃え立たされたエホバの激怒は大きいからです』。—列王第二 22:11-13。歴代第二 34:19-21)

ヨシヤは謙遜だったので、エホバから祝福された。 (王二 22:18-20。塔 00 9/15 30 ページ 2 節ヨシヤの使者がエルサレムの女預言者フルダのもとに行き、ある報告を持ち帰ります。フルダはエホバの言葉を伝え、新たに見つかった書に記録されている災いが、背教した国民に降り懸かることを示したのです。しかし、ヨシヤはエホバ神の前にへりくだつたので、災いを見る必要はありません。ヨシヤは父祖たちのもとに集められ、安らかに自分の墓地に運ばれることになります。—列王第二 22:14-20。歴代第二 34:22-28)

尊きを求めて謙遜にエホバに頼り、自分の間違いを認め、行動を改めるなら、エホバは喜んでくださる。 (ヤコ 4:6) しかし、神が示してくださる惜しみない(\*過分の)親切は、そのような精神に勝ります。それで、こう述べられています。「神は傲慢な人に敵対し、謙遜な人に惜しみない親切を示してくださる」)

^(王二 22:1-5) ヨシヤは8歳で王になり、エルサレムで31年治めた。彼の母はエディダといい、ボツカトの人アダヤの娘だった。 2 ヨシヤはエホバから見て正しいことを行つて、父祖ダビデと全く同じ道を歩み、右にも左にもそれなかった。 3 ヨシヤ王の治世の第18年、王はメシュラム